

前回の内視鏡機器の進歩の話題の中で、粘膜を観察する際に照射する光の波長を変えることが、診断に役立つことを簡単に紹介しました。血液中のヘモグロビンが405〜410ナノメートルの波長の光をよく吸収するため、血管が周囲より際立って見えるという特性を利用して、NBI（オ

リンパス社）あるいはBLI（フジフィルム社）という画像強調観察が可能な内視鏡が開発され普及してきました。粘膜表層近くの微細な血管は茶色く、やや深い層の血管は青緑色調に見えるので、食道や咽頭の観察の際に正常の粘膜は暗緑色調であるのに対して、がんのある部分は茶褐色調に見えることが多く、通常の白色光では認識が困難な腫瘍性病変も発見しやすくなります。さらに拡大観察を併用することで、血管の径や配列の不整、血管の見られない領域の所見などから病変の深達度を診断し、最適な治療法を決定することが可能になります。



福本 学

■内科

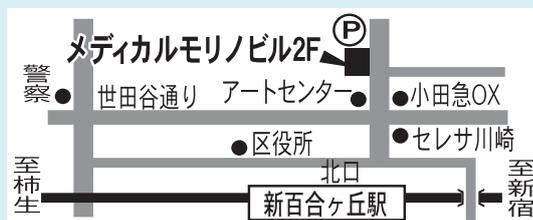
新百合山手福本内科

☎ 044-955-8877

麻生区万福寺 6-7-2

メディカルモリノビル 2F

<http://www.fukumotonaika.jp/>



光では認識が困難な腫瘍性病変も発見しやすくなります。さらに拡大観察を併用することで、血管の径や配列の不整、血管の見られない領域の所見などから病変の深達度を診断し、最適な治療法を決定することが可能になります。